



このコーナーは新刊の心理学関連書籍を著者自らにご紹介いただくコーナーです。

## 視覚科学

横澤一彦

視覚系の情報処理能力はわれわれの行動にとって非常に重要なので、高度に発達しています。このような視覚情報処理過程について、認知心理学の立場から解説しました。視覚を含むさまざまな行動をいきなり脳機能で説明することを欲する社会の傾向から、科学的根拠が希薄にもかかわらず、安易な拡大解釈がメディアで繰り返されていますが、本書では視覚研究で得られた知見をできるだけ正確に伝えたいと考えています。

視覚情報の入力から高次視覚に至る各過程の説明は、最近の研究

進捗を反映しています。注意やオブジェクト認知、情景認知は、日本語の書籍ではまとめて取り上げられることが少なかった分野です。また、狭義の認知心理学研究に限定せず、学際的研究を積極的に数多く取り上げることによって、認知心理学的アプローチの色褪せることのない重要性を伝えたいと思います。

専門課程で学ぶべき認知心理学の教科書、理工系の視覚科学関連の教科書、視覚研究者のための手引書として本書が利用されることを望んでいます。



著 横澤一彦  
発行 勁草書房  
A5判 / 260頁  
定価 本体 3,000円 + 税  
発行年月 2010年2月

よこさわ かずひこ  
東京大学大学院人文社会系研究科教授。  
専門は認知心理学（注意、共感覚、感覚融合認知などの統合的認知研究）。  
東京工業大学大学院修了後、NTT基礎研究所、ATR、東京大学生産技術研究所、南カリフォルニア大学などを経て、現職。一貫して高次視覚の研究に取り組み、注意やオブジェクト認知に関する論文多数。